

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300327 認知症対応型共同生活介護		
法人名	(有)M&Y		
事業所名	グループホーム めぐみ野 1階		
所在地	北海道釧路郡釧路町曙1丁目2番14号		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0174300327-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300327-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族会としての組織的な活動は中々行われておりませんが、行事等があると快く参加して頂き、利用者さんとスタッフ、家族間で良い関係が出来ている。その為、施設側や家族側からの困った事、お願い事等が相談しやすい環境なので良いケアにも繋がると考えています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年12月3日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<家族や地域との連携や協力体制>**  
野外昼食会やクリスマス会などの行事を企画し、利用者の家族が事業所に来所しやすい環境にするよう工夫をしているため、頻繁に利用者家族が事業所に訪れていて良好なコミュニケーションが取られている。また、幼稚園のおゆうぎ会や地元の大学生が結成しているよさこいチーム、地域の創作新民舞踊・日本民謡舞踊などのボランティアを招き 地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。

**<職員の就業環境への取り組み>**  
事業所独自の理念の基に利用者が安心して毎日暮らしていけるように支援していくために、職員同士の人間関係を良好にして働きやすい環境を創り、離職率を下げるように努めている。また、外部の実践研修を行う勉強会等に参加して職員の意識向上にも取り組み、より良い支援につなげている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や廊下に掲示して日々目の届く所に有ることで実践を心掛けている。	事業所独自につくりあげた理念を廊下や事務所に掲示して、理念の共有とその実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(盆踊り・お祭り・敬老会)への参加をしたり、ホームでのクリスマス会等の行事にも参加して頂いている。	幼稚園のおゆうぎ会や地元の大学生が結成しているよさこいチーム、地域の創作新民舞踊・日本民謡舞踊などのボランティアを招き地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会に参加し内容を会議等で報告しスタッフ間で共有し、ケアに活かせるように心掛けている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域で福祉活動をしている方の参加を頂き貴重な意見を聞くことが出来る。	年6回運営推進会議を開催し、町職員も参加して色々な意見を聞きながら事業所の運営について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	野外昼食会やクリスマス会等に参加して頂きホームの日常を見て頂いている。	日常業務の中で町担当者や包括支援センターと情報交換を行ったり、町主催の感染症対策講習会に参加するなど、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は昼間は施錠せずチャイムを取り付け外や中の出入りを確認している。	身体拘束委員会を毎月開催し、管理者と職員が身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われるよう努めている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や会議に参加し理解を深め防止に努めている。また、虐待防止委員会をホーム内に設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議に出席し必要な利用者さんには活用出来る様に職員会議等で話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に目を通して頂き不安や疑問点等が無いか確認し、十分な説明を行い理解、納得を心掛けている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの日常の行動、会話等を記録に残し会議で話し合っている。家族の方の意見等は来訪時に気軽に話せる様心掛けている。	野外昼食会やクリスマス会などの行事を企画し、利用者の家族が事業所に来所しやすい環境にするよう工夫をしているため、頻繁に利用者家族が事業所に訪れている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの対話の機会を作りコミュニケーションが取れるようにして、出来るだけ意見を聞いている。	職員との個別面談や、毎月のミーティングや日常業務を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を行ったり仕事の質を変化させる事で向上心を持てるように心掛けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議で勉強会を行ったり研修等に参加して日常のケアに役立てるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、友人、本人から話を良く聞き以前の生活に少しでも近づける様に心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の時に家族の心配している事を聞き、協力して頂きながらどう対応できるか伝えられている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所以外にも現状で利用できるサービスの説明をに対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活(掃除、食後の手伝い、外出、買い物等)をスタッフと一緒に楽しみながら信頼を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの様子を伝え家族とスタッフが一緒に支えられる関係を築いてる。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中で行きたい場所、会いたい人が居ないか聞き取り、個別の外出や知人の来訪を心掛けている。	利用者の行きたい場所や会いたい人などを聞き、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れる事がない様にできる限り外出したり、知人などが来訪できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の間人間関係を見て喧嘩にならない様に見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時折り連絡を取り合い対応している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方は、その都度本人の希望、意向に添える様に心掛けている。	センター方式を活用し、本人の生活歴やアセスメントを基に家族や本人の意向や希望を把握し、言葉や表情の中からも本人の思いを汲み取れるように心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とコミュニケーションを計り馴染みの暮らし、生活環境に少しでも近づける様心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせた日常の暮らしが出来る様また力が発揮できる場を持つよう心掛けている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から家族と話し合ったりカンファレンスの時間をかけ現状に即した介護計画にを元にケアを心掛けている。	職員同士で、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、本人、家族の意見や思いを反映し、確実に実践できる介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子をその都度記録し、スタッフ全員が情報を共有し実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さん家族のニーズに対応し、より良い支援を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、商店は心掛けているが地域資源は十分に把握できていない。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望の病院には継続して受診出来るよう支援している。	受診は、ご家族対応を基本としているが、近隣病院の医師やかかりつけ医と連携を取り、訪問看護や往診などの適切な医療を受けられるように支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来て見て頂き、問題があったら相談したり健康管理等が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側や家族と情報交換をし回復状況の確認、退院時期の相談等を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の希望に添える様に支援している。今後も十分説明をして出来る限りの支援をしていきたい。	3年前より法人としてターミナルケアに取り組んでいて、医師と職員が連携をとり、事業所ができることを家族に十分説明しながら、本人や家族の意向を踏まえ実践している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット、事故報告書を使いいつでもスタッフが情報交換をし振り返れるようにし、同じ事が起きない様心掛けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民の方にも出来るだけ参加して頂き、定期的に訓練を行い専門家からの助言を受けている。	年3回消防署の協力を得ながら避難訓練を実施し、緊急時に職員全員が速やかに対応できるように努めている。また、消防署からのアドバイスを受け、二階からの緊急脱出スロープも整備されている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に本人のプライバシーを損ねないように心掛けている。	個人情報の扱いは十分に注意しており、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応をするように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で様々な選択が出来るよう心掛けている。また、一人ひとりの状況に合わせたこえっかけ等をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが希望があれば、買い物や散歩等一人ひとりに添った生活が出来るよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定で服を選べない方には毎日同じ服にならないように声掛けをしながら一緒に選ぶように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後食器拭きや片付けを利用者さんが積極的に取り組んでいる。また食器拭きの声掛けも促している。	利用者一人ひとりの力を活かしながら、大根の漬物づくりや昼食に稲荷ずしをつくるなど、食事の準備や後片付けなどを楽しんで行えるよう検討している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後の水分摂取、食事時の水分摂取の声掛けを行い食べる量も一人ひとりに合わせている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助や声掛けをし、就寝時には義歯の洗浄をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録用のボードを使いトイレ使用時に記入し、パット使用している方はパットの確認や排便のチェックも行っている。	排泄記録ボードを使い排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として水分の調整や繊維を多く含む食材を使うなど工夫している。医師に相談し下剤の調整を行う事も有る。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否した時は無理強いせず他利用者さんに声掛ける。またスタッフと一緒に銭湯に行く事も有る。	利用者の希望やタイミング、生活習慣に応じて、入浴が出来るように支援し、本人が楽しく入浴できるように心掛けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて居室や居間で休息して頂いている。また声掛けも行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、名前を読みあげ本人と確認し口の中に残っていないか飲み終わるまで見守りしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と買い物やドライブに出掛けたり洗濯物等をたたんだり、居間でレクリエーションして楽しむよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し散歩、買い物、ドライブ等本人の希望に添えるよう心掛けている。	日常的に散歩や買い物など一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。また、山花リフレ温泉や動物園見学、お弁当持参での花見や外食等、普段行けない場所へ外出が出来るように支援している。	今後、個別の外出支援に力を入れていく計画を立てているので、その実践に期待しています。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理しているが本人の希望に応じて不足用品等スタッフが同行して買い物に行くように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの希望が有る時や家族からの電話を取り次ぐ等支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に四季に合わせた飾りを共同作業で作ったり飾りつけをしたり、食事中テレビを消し音楽を流したり、心地良い空間作りに努力している。	共用空間の大きな窓からは自然の光が差し込みとても明るく、リビングや廊下の壁には行事参加の写真等を掲示していて、いつも居心地良く過ごせるように工夫されている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たい人、寝ていたい人、気の合う同士話したり、利用者さん一人ひとり好きな場所で自由に過ごしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた物、馴染みの物を居室に置いて頂くことで、少しでも安心して過ごせるように支援している。	利用者本人が居心地よく過ごせるように、居室には本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、仏壇、家族の写真などが持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に持っている力を発揮出来るよう支援している。		



## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300327 認知症対応型共同生活介護		
法人名	(有)M&Y		
事業所名	グループホーム めぐみ野 2階		
所在地	北海道釧路郡釧路町曙1丁目2番地14号		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0174300327-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300327-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族会としての組織的な活動は中々行われておりませんが、行事等があると快く参加して頂き、利用者さんとスタッフ、家族間で良い関係が出来ている。その為、施設側や家族側からの困った事、お願い事等が相談しやすい環境なので良いケアにも繋がると考えています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑ヶ丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年12月3日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議又はカンファレンスで話し合いを重ねていく事により、事業所独自の理念に近づいている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の敬老会や食事会には利用者とスタッフが参加し日常的に交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合に参加しながら認知症の啓発に努めている。介護に携わる人材を育てる為に実習生を受け入れている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いている地域の方、関係者の方達から質問、意見、要望等を出して頂き常に地域活動へ参加出来る様になっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はもちろん野外昼食会、クリスマス会等の行事に参加して頂き協力関係を築いて取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り毎月の会議で話し合いをしているが、奥が深く難しい問題だと思う。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議、勉強会などで高齢者虐待防止法に関する理解や防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の事を会議の際に話し合いをしたが、未だ全職員に理解できて居ないので今後も研修や勉強会をして習得に努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し納得を得ている、冬季光熱費、暖房費の増額について家族、利用者に理解して頂き同意書を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見が有った時は速やかに職員会議、ケースカンファレンスで検討し改善に努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際又は個別面談にて意見を聞き反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、勤務状況が把握されず給与、やりがい等各自が向上心が持てていないのでは？		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にはなるべく多くの職員が受講出来る様にし、会議で研修報告として発表し、職員全員で共有する。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修、他グループホーム間の交流、意見交換、研修会をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取り調査を綿密に行い資料を基にしながら、スタッフ全員が利用者さんに安心して頂けるようにつとめている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人は基より家族の意向を聞きながら、こちらが出来る事は精一杯やらせて頂くことを伝えながら、家族にも意見、要望を言って頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り調査に力を入れて、どんな小さな事でも見逃さないようにスタッフ全員で対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	やってあげてるのでは無く普段から一緒に生活していて出来る事を一緒に行動し、信頼し合える関係に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月通信という手紙に普段の生活の様子を個別の写真や文章で家族へ伝えたり、細めに家族と連絡を取り、預けっぱなしにならないように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望で出かけたり、お話を聞いたり出来る限り支援させて頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん一人ひとりの性質を見極め、スタッフが共有し誰もが同じ姿勢で接し、利用者さん同士がコミュニケーションとれるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡をとり支援できるように心掛けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの思いや意向は様子や発言を常に気にかけて一人ひとりの暮らし方を尊重している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月の会議、カンファレンスで生活環境、他利用者さんとの関係、性格等話し合っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人ひとりの一日の過ごし方を見守りながら体調の変化等有れば、スタッフ間で共有し改善に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議、カンファレンスで話し合い現状を把握し家族や本人とも話し合い、より快適に過ごせる様心掛けている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡ノートを活用しスタッフ間での申し送りを徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の方と話し合い素早く対応出来るように心掛けている。スタッフ間でも情報を共有し柔軟なサービスを取り込める様に心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で避難訓練等を定期的に行い地域との協力を深めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得する医療機関で適切な医療を受けられる様、良い関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週日間毎に訪看が来訪し相談したり、訪看からの指示等は連絡帳でスタッフ全員周知している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフも医療機関へ出向き状況をしっかり伝える。退院に備えて家族医療関係者情報交換を行いアセスメントを行う。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明しているがホームとしてどこまで出来るかを、色々なケースを考え勉強する必要がある。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼しスタッフ全員が定期的に講習を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で夜間、日中の火災を設定した避難訓練を地域の方にも参加して頂き定期的に行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し一人一人に合う対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いや意向は様子や発言を常に気にかけて一人ひとりの暮らし方を尊重している。話を傾聴しその人らしさを発揮できるよう見守っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用さん一人ひとりのペースに合う生活を大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、洋服等、一緒に考え生活に張りが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の好物、又は食べられない物を把握している。片付け、盛り付け等は職員とやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスは良いが水分量をチェックすると不足がちな為、なるべく飲んで頂くように心掛けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄、消毒等を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをして時間を見計らい声掛けトイレ誘導している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や水分摂取に気を付けている。昼食はヨーグルト、オリゴ糖の果物などを食べて頂くようにしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は順番を決めているが本人の意思を尊重し、その日の気分やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂いている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの居室が有りベッドも有るので安心して自由に休憩できる様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診から帰設後、家族さんから薬の変更や病院から生活で注意する事が無いか聞き、処方と薬をチェックしている。内服時も誤飲の無いよう確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人ひとりに合った役割お手伝い等お願いし、張り合いや喜びを持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出の希望があれば出来るだけ周りの人と協力しながら出かけられるように支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者さんには所持して頂き、買い物はスタッフが一緒に行くなど工夫している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことが困難な方が多い為、本人の希望で電話を掛ける事は支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の様子に合わせカーテンやレースを閉めたり心掛けている。テレビは利用者さんが楽しめる番組を選び、音も大き過ぎないように気を付けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き好きな場所に座れる様になっている。食事の時の食卓も気の合った人と話せる様工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物など本人が好むものを出来るだけ多く置くようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの張り紙を貼ったり、各部屋には表札を付け自室が分かるように工夫している。		



## 目標達成計画

作成日：平成 25年 12月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	お天気の良い日に利用者さんが外出したいと言った時に、スタッフ調整という事も有り中々すぐに対応出来ていない。	利用者さんの希望に沿うよう外出等を考えた	ほぼ毎日行っている買い物を減らし、1階2階どちらか一人で行くようにしたり、FAX発注等を利用し利用者さんとの時間を作る。 個別外出、行事等を取り入れ外に出る機会を増やす。	12か月
2	53	使い慣れた物、居心地良い環境で過ごして頂きたいが、介護度があがり危険を伴う様になり、使い慣れた物も少なくなり殺風景な部屋になってしまう。	不穏にならない程度に落ち着ける明るい部屋作り。	色や形を変え危険性の無い物を飾る。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。